



表紙の写真

「竹林猛虎の図」

都留市文化財に指定されている「八朗草堂白駒」のひとつ「竹林猛虎の図」である。緑ラシャの地に、竹林を背景にして雄雄2体の虎が、太巻手の金糸、黒糸のだんだらで縫いとられ、強烈な印象を与えてくれる。ギヤマン（ガラス玉）の両眼を輝々と光らせ、メッキされた真鍮の鋭い牙と、鉤状の爪をもった四肢をふんばっている様は、原色の色彩と相まって力強く表現されている。また、幕の中の竹のひと節ひと節も確かな縫い取りがされており、竹の葉は上部のみ生地に縫いつけ、山車が引かれると揺れて竹林を吹き抜ける風を感じさせてくれる。片隅には、「東陽画狂人北斎筆」と落款が縫い取られている。役者絵や風景版画「富嶽三十六景」の作品で知られる浮世絵師葛飾北斎。その北斎の作風をもとに刺繍して完成したのがこの刺繍である。作者はもとより往時の都内や谷村衆の繁栄ぶり、そしてこの都に上る大切さを感じられる。

(写真と文：浅川 毅)

「MUH」vol.15 1998.1.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢達・矢田道生・横田雅幸・久保田充一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男／山川エミ・高山ひとみ／

原田陽子／今井久・杉村陽・青木茂樹／

浅川毅・櫻克明

印刷／電算印刷株式会社

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した
Male (仲間) Union (結束) Harmony (調和) の頭文字から
とりました。幻のムー大騒のロマンを目指します。

フォーラム		2
テーマ こたつ	江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	
対談		4
山梨21 中村 司氏 (理学博士)		
ホスト 早野 潔		
標高差で多彩な鳥群 貴重な南アのライチョウ		
たくさんの鳥たちの調和 望ましいのはハーモニー		
鳥はどうして少なくなったか 環境破壊がもたらしたもの		
トピックス		10
宴の後は?		
企業ウォッチング		13
ARIA DE FIRENZE 上原勇七氏		
サークル訪問		14
民歩会		
セミナー		15
マーケティング戦略の再構築		
インフォメーション		16
甲府通運・早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨		
ようこそ歴史		18
木喰五行上人	上野晴朗	
アートへのまなざし		20
ボクの美術品観察日記8	山本育夫	
トレンド		22
アンティーク		
BOOK こんなところに山梨…	BOOKコーナー 「野鳥のうた」	23
滝を見るハイキング		24
大門川 宮司の滝	上野 巖	
甲府通運前史を訪ねる(9)	林陽一郎	25
ユーザー訪問		26
峡北印刷株式会社		
お楽拝見		27
山下 彪さん		
リレーエッセイ		28
古い街道と新しい道	川島秀一	
ときのひと・FACE		29
甲府通運株式会社 小倉 和夫さん		
おしゃれ シダックス 甲府山の手通りクラブ	たべる サンタマリア デル フィオーレ	30
お茶の間の民俗学(6)		
—ふるさと心の味(1)—	志摩阿木夫	31
コラム		32
某月某日		

四角でも野暮なものでなし…

江宮隆之

今や暖房というと、エアコン、石油・電気ストーブ。最近はクリーンなエネルギーということでガスストーブの需要も高い。家全体を暖めるには床暖房がいい、という人も増えているようだ。もう、囲炉裏だの火鉢だのを知っている世代は少数派になっている。

百年の煤もはずに囲炉裏かな 高浜虚子

そういえば煤払いなどという年末恒例の行事も、古都の大きな寺あたりのテレビニュース用の行事としてしか見かけられない。一般家庭では、粗大ゴミはでるものの、天井に煤が着くなどということとはなくなってしまったからである。

だが、我が家ではそのエネルギーこそ炭や練炭から、電気に取って代られたが、相変わらず茶の間の中央に据えられている。

炬燵は、日本の「座る文化」が生んだ日本独自の暖房器具だ。正座、胡座など座る生活様式から発達したのである。椅子を使う西欧の生活様式から生まれた暖炉、ストーブとは、だから性格を異にする。

炬燵の原型は囲炉裏であろう。極端に言えば、炉に槽を掛けてその上を布団で覆う。そういうことではなかったか。

先ず、部屋のなかに炉をきって、上部が格子状になった槽を掛ける。その上に布団のような熱を逃がさないものを掛けて出来上がりだ。これを、昔は切炬燵とか、掘り炬燵とか呼んだ。昔の炬燵は足を伸ばしても、深く切り込んであって、子供の足などは容易に火元には届かなかった。

槽の底の部分に板を張り、火容（ひいれ）を置いて、それを持ち運び出来るものを置き炬燵と呼んだ。この火容では炭や炭団（たどん）などの火を使った。

炬燵というものは火が逃げない便利な暖房器具、ということだけでなく、冬の夜の団楽の場にもなる懐かしさを伴う。核家族化や少子化が進んで、年寄りや子供と一緒に足を突っ込んで心を通い合わせる場が少なくなっている。炬燵はそんな場所であった。

もっとも、「四角でも炬燵は野暮なものでなし」という江戸川柳もある。男と女二人だけの炬燵では、足と足がそれとなく触れ合って…。炬燵っていろんな使い方があったのです。

■1948年山梨県生まれ 第13回歴史文学賞 第8回中村屋賞受賞 「白狐の人」(河出書房新社)が5月文庫本化 7月に『小西行長』(河出文庫)を刊行

炬燵は家族の巣である

古屋久昭

毎年のことだが、秋冷えの時期になると炬燵をたてる。年中行事のようだが、鼈餅りとは訳が違う。朝夕の気温の低下が背中や足を冷え冷えとさせ、気になるのである。それが一週間も続くと、つい「おーい、炬燵」ということになる。衣替えのように月日を切って決まりよく11月1日から、というものでもなく、気まぐれにも近いものである。

ところで今年はいつもと違う。カミさんが「炬燵はよしてストーブにしましょう。その方が部屋は広く取れるし、すっきりもするし」というものだから、その案に賛成した。ストーブ生活は11月半ばまで続いた。「やっぱり炬燵の方がいいかしら」。いい出したのはカミさんの方である。実際ストーブでは、部屋にいても我慢しているという感がぬぐえないのだ。むしろカミさんのいうことに従った。

かくして遅まきながら我が家にも、炬燵の登場である。見覚えのある炬燵のかけ布団、その上にガス板。ガス板には湯飲み茶碗やミカンの二つ、三つ。夜にはお漬物やツマミ、ときに本の一冊、テレビのリモコン。こうして炬燵の風景が整う。炬燵にあたってみれば、もうあったかくて、おふくろの温もり。これぞ日本の炬燵、と思わず持ちあげてしまいたくなる。ストーブではこんなふうには参らない。炬燵の良さはほかにもある。炬燵さえあれば黙っていてもみんな寄ってくる。一家団楽にはなくてはならぬ仕掛け家具というわけである。

元旦に、「おめでとう」といいながら、家族が晴れやかな顔になって炬燵に集まってくる。おせち料理に舌鼓をうちながらの談笑。子どものころは炬燵の中でよく足相撲をしたものだ。相撲のうちはまだおとなしく、そのうちにどうしても喧嘩となる。炬燵やぐらが持ち上がったって「いいかげんにしろ」、ついには親父の雷が落ちる。

炬燵の光景は家族の光景である。家庭の原点も案外こんなところから始まるのかもしれない。ストーブをそれぞれの部屋につけ家族もバラバラになってテレビをみている。これでは家庭のあったかみも絆も生まれない。炬燵は冬ならではの風物である。春になればみんな炬燵から巣立っていく。そう、炬燵は冬の間の「家族の巣」といってもいい。

■1943年大阪府生まれ 日本現代詩人会員 日本現代詩歌文学館評議員 詩集に『料理考』『椅子の歌』『落日探集』 童謡集に『虫らしく花らしく』 そのほかエッセイ集『日々のおこぼれ言葉の機軸』など

コタツの怪談

岩崎正吾

茶の間はたいていの家から消えてしまったのに、そのシンボルのようなコタツが残っているのは不思議だ。ストーブのたぐいは顔ばかり火照って、足元が少しも暖かにならない。暖房具としてコタツは優れているというが、それだけではなく日本人の原風景があるような気がする。

「まあ、こっちへ来てコタツに当たれしねえ」。そう勧められ、コタツに割り込む。顔が近づき、肩が触れ合う。同じコタツを囲めば、座の人々が急に身近になる。つまりは、打ち解けるのが下手な、日本人の「社交道具」がコタツではあるまいか。

今では電気ゴタツが主流だが、昔は下の炉に炭を入れた。むろん足が炭に触れないよう、上に金網がかけられている。椅子にかけられるような、掘りゴタツというのが流行した時期もある。深く穴が掘ってあり、足を伸ばすことが出来る。どこのコタツも掘りゴタツという時があったが、子どもの頃はあれが苦手だった。怖い思い出があるからである。田舎の家で掘りゴタツに足を伸ばしたとたん、グニャリと柔らかいものを踏んだ。ものすごい声が出てコタツが振動し、足に痛みを感じた。中に猫がいたのである。

いきなり踏んづけられ猫も驚いたろうが、こっちも心臓が止まるかと思った。その後、わたし自身の体験ではないが、もう一つ怖い話を人から聞いた。掘りゴタツの中で、ヘビが冬眠していたというのである。そんなものを踏んづけたら、間違いなくわたしの心臓は止まるだろう。以来、掘りゴタツで足を伸ばせなくなった。足が底に届くまでの不安にたえられないのである。

コタツのことをいろいろ考えていたら、その夜、夢を見た。さあ、当たれし、と勧められ足を伸ばした。まわりに四人の老人がいて、こちらを見てニコニコしている。わたしも四人を見てニコニコした。お互いニコニコしているうちに、ふいに気がついた。四人とも、もう、とっくに死んでしまった祖父母たちである。そう言えば、みんな青ざめた顔をしていた。

どうも、コタツをめぐるは、ろくな思い出がない。

■1944年甲府市生まれ 小説家 長編歴史ミステリー『異説本能寺・信長死すべし』が講談社文庫として再刊 新しい信玄を描いた長編歴史エッセイ『武田信玄はどこから来たかー武田騎馬隊の謎を追う』(山梨ふるさと文庫刊)が話題を呼ぶ



甚だしい被害

佐藤眞佐美

明治40年に山梨県を襲った暴風雨は、県下全体に甚だしい被害を与えた。田畑の復旧は望みなく、このとき多くの農民が北海道各地に移住した。「北海道ニ於ける山梨縣移住者概況」(明治43年調べ)によれば、例知安村だけで田中喜一外206名、保料勇太郎外115名、志村治郎外37名が入殖している。因みに一戸の移住費は94円92銭1厘で、そのうち小屋掛費は8円39銭「十坪の草葺掘立小屋ニシテ四圍を萱又ハ笹ニテ圍い寝所ハ板張トス」とある。北巨摩の農民奥水与左衛門の末子輝吉は、故郷を脱出する移住者に混じって北海道へ渡る。山形県出身の佐藤文蔵の長男文一郎と、奥水輝吉の長女照子が知床で結婚したのは昭和13年。翌年ほくが早ばやと通い出る。

山形県の開拓者たちは両側から木材を立て掛けただけの坪み小屋(と言った)を建て、小屋の真ん中に囲炉裏を作って古代とさほどかわらない生活をしていたというから、8円39銭の家は罹災者用の特別補助金が出たのであろう。ほくの生まれた頃の家とかかわらない。居間の中央には瓢箪型の薪ストーブが据えられ、煙突が真っ赤になるほど薪を燃やす。けれどもちっとも室温は温まらない。畳などという高級品はよほどのお大尽でなければ使っていなかった。隙間だらけの板の間からはヒョーヒョーと風が来る。窓も仕切り戸も建てつけが悪く雪は吹き込みほうだい。雨が降れば床は洗面器やバケツ、たらいに鍋で足の踏み場もない。

夜寝るときは湯たんぽ代わりに焼いた石を用いることはいつぞや書いた。法事などで親戚が集まり大勢が寝るときは、大広間に布団を敷きつめ、真ん中に炭火をいれた素焼きの壺を置き、これに木杵をかぶせてその上に掛け蒲団をのせる。北海道ではこれを炬燵とは言わない。行火といった。男も女も放射状に布団にもぐりこむ。子どもたちにとっては楽しい雑魚寝なのだが、甚だしい被害をこうむることがひとつあった。寒いのでみんな掛け蒲団を奪い合い、頭からすっぽりかぶって寝る。この状態で屁をひる不心得者がいるのだ。あとはご想像にお任せする。

■1939年北海道生まれ 日本児童文学者協会 日本児童文学協会会員 著書に『怪奇!大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットのシルバー』(草葉社)『山梨の童話』(リブリオ出版)など

どんなメッセージを聞きとるか 野鳥たちの「幸住県」構想 もっとやさしく もっと身近に

ゲスト

なか むら つかさ
中村 司氏
理学博士

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

標高差で多彩な鳥群 貴重な南アのライチョウ

早野 鳥の数や種類は、自然環境のバロメーターといわれますが、鳥から見る山梨の自然環境とは、いかがなものなのでしょう。どんな鳥が、どんなふう

中村 山梨は山に囲まれた盆地です

が、水系が非常に発達していますので、水鳥もかなりいます。また、標高80メートルほどの富沢町から3,776メートルの富士山にいたるまで高低の差があり地形の変化が大きいので、鳥たちの垂直分布も多様です。

早野 面積の狭い山梨ながら、国立公園がいくつもありますね。自然に富んだ環境といえますね。鳥たちの表情

も豊かなのでしょうか。

中村 河川地帯ですとカワセミ、ヤマセミ、カワガラスといった水に関係した鳥がいます。今でしたら、鴨がいます。この盆地には、何千羽という鴨がいるんです。

人家の周りにはスズメ、ムクドリ、ヒヨドリなどがいます。山に行きますと、ホオジロ、モズ、しだいに上っていきますと、シジュウカラ、オオルリ、キビタキ、キジバト、メジロなどと賑やかです。

早野 標高差によって、さまざまな鳥が分布しているわけですね。しかも、季節によってさらに鳥たちにも変化があるわけですね。

中村 ウグイスは人家の近くでも見かけますが、繁殖期になりますと2千メートルも高いところまで上っていきます。ひとつの地域に棲息しているながら、垂直に移動します。

さらに上っていきますと、コマドリ、ミソサザイ、もっとも高いところにいきますとホシガラスとかイワヒバリがいます。そして山梨の個性を代表するのが、ご存知の南アルプスのライチョウです。

早野 国の特別天然記念物ですね。

中村 白根三山、北岳と間の岳と農鳥岳ですね、それから駒ヶ岳にも少し

■中村 司

1926年河口湖町生まれ 東京文理科大学動物学科学
カリフォルニア大学動物学大学院留学
理学博士 山梨大学名誉教授
国際鳥学会シニア委員 ニューヨーク科学アカデミー会員
日本鳥学会名誉会員元会長 山梨鳥類研究所評議員
日本鳥類保護連盟理事 日本野鳥の会甲府支部長
山梨科学アカデミー理事 山梨県環境保全審議会会長
山梨県文化財保護審議会委員
山梨県自然保護教育振興会会長
著書に「山梨の鳥」「山梨のライチョウ」など 甲府市在住

います。貴重な鳥で、氷河期が去ったあと普通の鳥は移動したのですが、このライチョウだけは3千メートル級の山に残ってしまったのです。

早野 夫婦仲の良い鳥ですね。今頃は雪の南アルプスで、雪と同じ白の保護色となっているんでしょうね。

■たくさんの鳥たちの調和 望ましいのはハーモニー

中村 垂直分布によって山梨の鳥の豊さを示すことのほかに、それぞれの国立公園における代表的な鳥を挙げ、その個性を語るという方法もあります。たとえば富士箱根伊豆国立公園の山麓では、アカハラやコマドリが目立ちます。鳴禽類といって鳥のなかでもことさらいい音色で鳴く仲間です。

秩父多摩国立公園に行きますと、山が深いものですからカケスが代表的でしょうか。声はあまりよくはありませんが、姿は美しいですね。それから八ヶ岳ですとカッコウでしょうか。アオゲラ、アカゲラも目を引きます。

早野 そして南アルプスはライチョウということになるわけですね。

山梨の鳥はウグイスですね。

中村 はい。ウグイスは姿の美しい

鳥ではありませんが、声の良さで知られます。江戸時代からいい声で鳴くように飼育し、競い合うというようにしてきたほどです。

早野 日本における声の三名鳥の筆頭ですね。春告鳥ともいわれますね。いち早く春の訪れを知らせてくれます。

中村 ウグイスは慈愛に満ちた鳥でもありますね。鳥のなかには自分で巣を作らないホトギスやカッコウといった種類があるのですが、これらの鳥は、ウグイスの巣に卵を産み込みます。そしてウグイスに雛を育ててもらうのです。ウグイスはホトギスやカッコウの卵を孵化させ、自分より3倍も体の大きい雛にせっせと餌をやり、子育てをします。わが子を犠牲にしてまでも育てます。

早野 悲しい習性ですねえ。共存すればいいのでしょうか。

中村 それでいて、ホトギスやカッコウは育ての親の影響をまったく受けずに、やがて産みの親を求めて南に渡っていきます。産みの親はとうに南に行ってしまうので、誰に教えられているわけでもなく、経験もないのですがね。

早野 不思議な現象ですねえ。遺伝子のなかに、南に行くという習性が織り込まれているのでしょうか。見送るウグイスもまた、切ないですね。

甲府の市の鳥はカワセミですね。寶石のまち甲府にふさわしいということから選ばれた美しい鳥ですね。

中村 朝日に照らされた羽色は、まさにエメラルドのようですね。

早野 水のきれいなところにしか住め



早野 潔



中村 司 さん

ない鳥ですから、この鳥を保護していくことは、市の自然環境を見直していくことにつながっていきますね。

中村 山梨には個性ある鳥、珍しい鳥もたくさんいますが、しかし、やはり山梨の自然を語るのには、たくさんの鳥によるコーラスであってほしいですね。鳥の種類が少ないのでは意味がありません。たくさんの種類がいて、調和があって、鳥たちのハーモニーの美しい自然が望ましいですね。

鳥はどうして少なくなったか 環境破壊がもたらしたもの

早野 世界にはどのくらいの鳥がいるのですか。そして日本にはどのくらいの鳥がいるのでしょうか。とりわけ、山梨県にはどのくらいの鳥がいるのですか。

中村 世界では8,600種、日本では520種。そして山梨は、記録のうえでは250種という数字が知られています。しかしながら最近では減少しておりまして、実際目に触れることのできる鳥ということになりますと200種以下になります。

早野 自然との共生ということがいわれていますが、私たちの生活も変化し、町の景観も変化しています。町で見かける鳥たちの種類も変化し、見かけな



くなった鳥たちもいます。私たち人間の暮らしは、野鳥たちにどんな影響を与えているのでしょうか。

中村 環境の変化が鳥たちの種類を減らし、数を減らしていることは事実です。そしてその環境というのは、地球規模の問題とっていいのでしょうか。鳥の半数くらいは、渡りということをしています。渡り鳥には、南から渡って来て日本で繁殖する夏鳥、シベリアから来て冬を過ごす冬鳥、そして東南アジアで冬を過ごし日本を通過してシベリアで繁

殖し、子供を連れてまた南に帰る途中で立ち寄るという旅鳥、という三つのグループがあります。

したがって鳥の減少している理由は、日本だけのものではありません。遠く東南アジアとの関係も深いのです。もっとも鳥の減少した理由は、ベトナム戦争とボルネオの大伐採です。しかし、そのことに気づいたのは後年のことでした。

ある時期、三光鳥がばったりいなくなるという現象が起こりました。「日月星ホイホイホイ」と鳴く鳥でしてね、日本の



極楽鳥とも呼ばれ、尾が長く、彩りも優美な鳥です。調査をしてみますと、これがまさにベトナム戦争とボルネオの大伐採と重なるのです。ですから鳥の危機は、世界的な人間の開発行為により引き起こされたのです。

何故鳥は渡りをするのか 何も飲まずに何千キロの旅

早野 鳥たちは何故、渡りということをするのでしょうか。苦勞でもあるし、危険でもあると思うのですが。

中村 渡りの研究には、その起源、航法、誘発要因、ルート、メカニズム解明など、いろいろな部門がありますが、私の専門は生理生態からのアプローチです。

まず最初は、何千キロという遠距離を渡るエネルギーとは何かの解明でした。これは、渡り鳥には太ったり痩せたりする脂肪がありまして、渡りをする時期になりますと分解し易くなります。鳥たちは何日も飲まず食わず眠らずで空を飛ぶのですが、そうした時には貯蔵した脂

肪が絶えず肝臓でグリコーゲンに代えられて、飛ぶ力となっていきます。

早野 長時間飛び続けながら、脂肪をエネルギーに利用していくわけですね。

中村 では、渡りを起こす要因はといいますと、実験の結果、日照時間が渡りをつくるということがわかりました。それは、およそ13時間です。

早野 通常では4月から5月が渡りの季節ですが、人工的に渡りを起こすことが可能なのですか。

中村 暖かな季節に渡るというふうには思いがちですが、実験では温度はあまり関係しないで、日照時間によります。よく観察していますと、渡り鳥は悪天候では決して渡りをしないで、快復を待ち続けます。

早野 渡り鳥というのは、よく方向を間違えずに飛んでいくものだと感心してしまうのですが、この点はいかがでしょう。

中村 いったい何を目標して飛んで行くかというのは疑問ですね。小鳥の渡りは夜おこなわれるものですから、実験ではブラネタリウムを作りまして、渡りを起こした鳥を入れ、その行動をコンピュータで分析したのです。結果は北極星であることがわかりました。鳥たちは、



星座をもとに、南北に移動することがわかりました。

早野 渡り鳥の群れが星座を道しるべに飛んで行くという情景は、神秘的ですね。

中村 渡りのメカニズムも研究しました。ホルモンと渡りの関係など、鳥たちの生理的なことです。しかし、何といっても、今しなければならぬことは、渡り鳥の保護ですね。

早野 研究ばかりでなく、永らく野鳥保護の先頭にたってご苦労されているところと、私たちにしてみますと大変有り難く、尊敬申し上げます。

生命の起源の森を守る 今日の鳥たちは明日のわが身

早野 近頃はまた地球の温暖化が取り沙汰されています。これも渡り鳥にとっては打撃なのでしょうね。

中村 それは計り知れません。とにかく鳥はデリケートです。

人間はかなり汚染されても生きていきますし、いま、遅ればせながら危機感をもって温暖化を課題にし、将来を展望しています。しかし、鳥たちは大変デリケートですから、人間はよしとしても、

鳥たちはもはや生きてはいけないう状況です。

早野 あらためて、鳥は自然環境のバロメーターであるということを実感します。

中村 すなわち、鳥は人間の指標です。人間の将来を教えてくれる指標なのです。外国の言葉に「今日の鳥たちは明日のわが身」という警鐘があります。

早野 まずは鳥たちの住む森を大事にしなければいけませんね。それほどまでに東南アジアの森林は荒廃しているのですか。

中村 割合で示しますと、日本における森林の面積は66パーセント、山梨においては78パーセントですが、東南アジアでは30パーセントです。最近フィリピンに行った知人の報告によると、木が全然なかったといっています。

早野 伐採してしまったのですね。深刻ですね。

中村 私も今年マレーシアに行くのですが、少しでも植林をしてきたいと考えています。温暖化は、生態系を崩してしまいます。温暖化が進めば植物も適応できません、鳥たちも適応できません。種の保存も脅かされます。

種が減少していきますと、即人間に影響

を与えます。たとえば人間に害を及ぼすものがあったとしても、種がたくさんあれば、他の種がこれを減らしてくれくれます。人間が手を打たなくてもいいわけです。ところがこのバランスが崩れますと、たちまちに人間が手を打たなくてはならなくなります。

早野 種を保存しておくことは、生態系を安定にすることであり、温暖化の問題は、まさにここにあるわけですね。自然との共存という言葉の背景が、さらに見えてきました。

都市化で住まい替え ツバメとイワツバメの巣作り

中村 甲府盆地において数の減少した鳥といえば、ツバメがいます。ツバメというのは昔から人間がとても大切にしてきましたから、民家の軒先によく巣を作っていたものでした。ところが、ツバメの世界に異変が起こりました。

30年ほど前、南アルプスからイワツバメがやって来まして、数が逆転してしまいました。普通のツバメは尾が燕尾服のような深い切れ込みがあるのですが、イワツバメは切れ込みが少ないのが特徴です。盆地へ来た理由は、山に餌がなくなってきたということもあるでしょ

自然を唱う美しい鳥たち



カワセミ (翡翠) カワセミ科



キビタキ (黄鵯) ヒタキ科

私たちの住む大自然豊かな山梨は、また野鳥たちにとっても「幸住県」だ。姿や色彩が美しい鳥、鳴声が美しい鳥。そんな野鳥たちにいつまでも住んでいてほしい。庭先にえさ場を作って身近に呼んでみて下さい。

声の三名鳥



オオルリ (大瑠璃) ヒタキ科



ウグイス (鶯) ヒタキ科



コマドリ (胸鳥) ツグミ科

撮影写真提供：依田正直・山下俊雄 (コマドリ)

う、自分の分布を広げようという本能からでもあったでしょうが、他にも要因があるのです。

早野 興味津々ですね。

中村 ツバメは平らなところに皿型の巣を作り、一方イワツバメは岩の壁面に垂直な巣を作るという習性があります。ところが甲府盆地の街並みは洋風化し、ツバメの好む巣作りができなくなってしまいました。かたやイワツバメにとっては、これは好条件となりました。

早野 鳥たちは人間の生活に密着しているのですよね。

中村 門灯の上に巣作りをしているツバメもいて、なんですか気の毒なかぎりです。それで多くのツバメは、かろうじて農村部へ移動し、納屋などにひっそりと巣を作っています。

早野 ご熱心なお話を伺いながら、やはり鳥類研究家でいらしたお父様の中村幸雄先生を、ふと思い出しておりました。温厚なお人柄から「小鳥のおじさん」と親しまれ、広く知られていましたね。

中村 はい。3歳の時、お隣からもらったスズメの卵を味噌こしザルに入れ、それをこたつで暖めようとしたというエピソードが残っているほどでして、鳥には早くから関心があったようです。

早野 お父様の偉業のひとつに「ブッポウソウ (仏法僧) の鳴声の主はコノハズク」という事実を突き止めたということがあります。弘法大師以来、世の人はその声の主を美しいブッポウソウそのものと受け止めていたのでしたね。

ご一緒に自然を訪ねて歩いたこともおありなのでしょうね。きっと、お父様から手渡された鳥たちへの熱い思いがおりなのでしょうね。

中村 父は、群がっている鳥を眺め「あの鳥たちは何処へ行くのか、それが見たい」と言い、渡りの研究をしました。私は「何故、行くのか」ということに関心をもちました。

早野 羨ましい限りの父子の姿ですね。そうして先生は30年間の研究で、渡りという鳥たちの不思議な現象を解

明され、日本における鳥類の生理生態学の第一人者として山階賞も受けられていらっしゃる。

これからは、どんな研究の抱負をおもちですか。

中村 これまで山梨における渡り鳥の生息状況を調査してきました。それによると、夏鳥は針葉・広葉の混交林にもっとも多く繁殖することがわかりました。また、冬鳥は河川下流域を越冬場所としていることも判明しました。こうした研究を活かし、渡り鳥の保護を提唱していきたいですね。

近年、アジアにおける渡り鳥保護の多国間条約が結ばれたこともうれしいですね。これからは子供たちにも、自然と鳥たちの話をたくさんしてあげたいと思っています。

早野 鳥たちの山梨における「幸住県構想」に、私たちもささやかでも役に立ちたいですね。鳥たちのメッセージに、もっともっと耳を傾けたいですね。

〔構成：三神弘〕

「長野オリンピック」に見る地域経済効果

宴の後は？

第18回オリンピック冬季大会は、今年の2月7日の開幕に向けて秒読み体制に入っている。地理的な観点からすると、今回の会場である長野は冬季五輪史上最南の開催地である。このような事情もさる事ながら、参加国・地域においても史上最大規模の冬季五輪になる。史上最多であった前回のリレハンメルでの67をしのぐ約70の国・地域の参加が見込まれている。

◇

年々大規模になってくるオリンピック。この背景には政治的な要因も挙げられるが、商業的な影響も非常に大きい。最近の例ではアトランタ・オリンピックがある。これはスポーツの祭典であったことは勿論だが、ビジネスの祭典？としても17億ドル(約1,955億円)が投じられた世界最大のイベントであった。これらの投資は、チケット販売、放映料、スポンサー収入等ですべてまかなわれたのだが、その他にも開催中アトランタを訪れた200万人以上の観客が及ぼした経済効果は莫大のものであった。

◇

オリンピック冬季大会にも、夏季大会に比べるとスケールこそ小さいが年々

コマーシャライゼーション(商業化)の波が押し寄せている。実際日本の産業界では、国内での低迷する消費を活性化しようと、CMやキャンペーン、開催中の商品販売など、五輪ビジネスが活発になってきている。スポンサー企業同士の競合も見られ、世界市場をにらんだ五輪商戦が熱を帯びてきている。

直接的な経済効果が期待できるため、オリンピック等のビッグ・イベントへの需要は年々大きくなっている。特にオリンピックの誘致に関しては、毎回各国で競争を削っているというのが現状であり、日本国内においてもオリンピックの他にも博覧会等のイベントの誘致に関して、各地域が熾烈な誘致合戦を繰り広げている。

イベントを主催する地域にとって、イベントそのものによる経済効果の他にも誘致を促す魅力がある。インフラ整備等に見られる国の公共事業である。長野オリンピックにおける公共投資の例を1つ挙げてみよう。最近開通した長野行新幹線「あさま」を利用すると、東京から長野への到達時間は最速で1時間19分(平均すると1時間37分)となり、これまでに比べて約半分になった。長野オリンピックのた

めにはやはり必要な投資である。しかし、五輪後はどうだろうか。情緒ある横川～軽井沢間の路線が廃止され、横川駅での釜飯販売が消えてしまった。オリンピック以外で、長野行新幹線「あさま」はどれだけ必要であるのだろうか。東京～新潟間にいつぞや開通した新幹線と思いが交錯してしまう。勿論、長期的に有効利用されている社会基盤も少なくはない。東京の首都高速道路などは、東京オリンピックのために突貫で作られたのだが、半世紀近く経った今でも不便さはあるが有効に活用されている。

◇

このように、インフラ整備等を目的とした国の公共事業の誘致が、オリンピック等のビッグ・イベントへの需要を必要以上に煽り立てている。最近の例では、2005年の愛知万博の開催決定があり、この万博は「国の公共投資ねらいか」などと、冷ややかに受け止められているようだ。これまで、日本国内では「村おこし」と呼ばれるような大小さまざまなイベントが開催され、国からの多額の助成金を受け取ってきた。しかし、そのイベント後の経済効果はあまり芳しくないのが実態で

ある。地域色のないイベントは波及効果を期待できないのである。

長野経済研究所によると高速道路や新幹線の完成など長野五輪開催に伴う経済効果は約2兆3千億円である。ただその9割前後は建設投資によるものである。よって地元の実感も薄く、貸ビルや増・新築が相次いだホテル業界には、「宴の後」を不安視する声も強まっている。

◇

長野信用金庫(長野市)が取引先の中小企業に聞いた長野五輪の経済効果に関する調査で、全体の56%が五輪効果が「ある」を回答した反面、65%は開催によるデメリットも指摘している。経済効果は「ない」とする答えも36%あった。経営に役立つ点に関しては、37%は「特になし」と回答。次いで「インフラ整備や知名度向上による人口増加」と「五輪を契機に整備されたインフラの利用」が23%で次いだ。「グッズ販売などの直接効果」を挙げた答えは12%にとどまった。デメリットとしては「開催前後の混乱による商売への影響」が44%と最も多く、「県外企業の進出による競争の激化」が14%で続いた。



五輪開催に伴う経済効果が、五輪開催に向けてさらには五輪開催中に期待できることは間違いの無い事実であろう。しかし、五輪後はどうであろうか。五輪直後には、その余韻または勢いによって経済効果は継続するであろう。問題はその後である。長野信金による調査にも現れているように、地元企業は「五輪の果実」にそれほど期待を寄せていない。果実どころかしわ寄せを警戒している企業も少なくはない。

◇

私個人としては、長野オリンピックを批判的に捕らえるつもりは毛頭無い。このような絶好の機会を利用して、長野に活力を生んでほしいと思っている。特に、長期的な展望に立ってその経済効果を期待している。そのためには、新産業育成やインフラ整備な

どの充実が必要不可欠であると思う。それにそれらのハードだけではなく、いかに魅力あるソフトを充実させるかが課題である。地域に密着したソフトの充実が、長期にわたる経済効果をもたらすのである。

長野オリンピックはもうすぐそこに来ている。今さら、新産業育成やソフトの充実を見直す時間的余裕が無いのも事実である。今となったら、ただただ五輪後の長野における経済効果を期待するだけである。今後においては、「新産業育成」「インフラ整備」を充実させ、地域色を持ったソフトを充実させたイベントの開催を期待している。

Good luck with success
in Nagano Olympic!

[文：今井久]



「上九一色村ふれあいセンター」 施工場所 西八代郡上九一色村
施 工 早野組・橋川建設JV

地域にうるおいが生まれたらいい、
身近にみんなが集まる施設があるといい、
それが幸せづくりに一役かえたなら
とってもうれしい気分です。

ここに来れば
いい事ありそう
さあ一緒に。



株式会社 早野組

本 社 ■〒400 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL0552-35-1111(代) FAX0552-35-1109
東京支店 ■〒193 東京都八王子市千代田2-5-24
TEL0426-67-8800 FAX0426-67-9497

中 部 支 店 ■長野県松本市東平2821-1 TEL0265(22)3969 FAX 52-2171
新潟営業所 ■東京都新宿区西新宿4-41-407 TEL(03)3376-2887 FAX 3375-7124
静岡営業所 ■静岡県静岡市大井2丁目4-7 TEL054(246)2503 FAX 246-2510
岐阜営業所 ■岐阜県土岐市東梅の木町1丁目32 TEL0572(55)2834 FAX 55-0817
神戸営業所 ■長野県駒ヶ根市赤穂3469-1 TEL0265(83)0360 FAX 81-5468

企業ウォッチング

ARIA DE FIRENZE

協同組合ファッションシティ甲府
理事長

上原 勇七 氏
うえ はら ゆう しち

●ARIA DE FIRENZEデータ●

昭和62年、甲府商工会議所工業部会において、地場産業による新しい団地づくりが話題となる。平成2、協同組合ファッションシティ甲府が設立。平成6年10月にアリア・ディ・フィレンツェが完成。69,874㎡に及ぶ開発地域には組合会館やイベント広場がある。平成7年、通産産業大臣からグッド・デザイン賞を受賞した。組合員12社。現在、最も注目を集める都市空間である。〒400 山梨県甲府市川田町アリア205 TEL552(20)1600



フィレンツェと聞いて何を思い浮かべるだろう。そう、イタリアはルネサンス発祥の地。中でもフィレンツェはファッションの世界的な拠点として、今なお熱い視線を浴びている都市だ。アリア・ディ・フィレンツェ(フィレンツェの香り)とは、その芸術の香り高き街に習い、新しいファッションを発信してゆけることを願って、フィレンツェ市長より命名していただいたネーミングである。

環境を抜きには考えられない

事の発端は10年前に遡る。ちょうどその頃、甲府商工会議所工業部会において、甲府市に新しい地場産業の団地をつくらうという話題が持ち上がっていた。当初、話に加わった企業は37、8社あったという。まずは協同組合の設立、そして用地の買収から造成まですべてを行い、平成6年に完成した。「通常は、工業団地といえば行政と共同で区画整理や土地の売却などを行うものですが、その点が大きな違い」と上原理事長は話す。「今はモノがあり余っている時代ですから、今後どのようにファッションの世界をつくりあげていくかが重要になります。よりファッション性の高いモノをつくるためにも環境を抜きには考えられません」。この開発区域内では、電柱が



見当たらない。実は、環境の美化を考慮して電話線や光ケーブルといったものはすべて地下に埋設しているのだ。エリアを囲むのも塀ではなく生け垣にし、開かれた団地をめざしている。「外観も業績も、両方相まなければと思います」上原理事長は、そう語る。

長いスパンでものを捉えてゆきたい

「よく社員にも言っていることなんですが、質の高い生活をしてゆこうと努力すれば、何らかの形でのおずと自分に返ってくると思います」人間の行動は心に基づくものだ。その心とは精神とも置き換えられる。つまり心の持ち方次第でいい結果を生み出せるという意味だろう。「確かに紙の使用量が文化のバロメーターと言われた頃もありました。それからすると社会の変化は大きいですね」折しも京都では温暖化防止の国際会議が開かれているところ。どうやらモノの大量生産・大量消費から少しずつ時代の気運が変わってきているようだ。「大量生産はコストを下げたり、メリットもあると思うんです。でもそれだけだと本当にいいモノはつくれません。その点、私どもの携わるファッションの分野においては、開発を重ね、技術を追求してゆくことは無限だと思っていますから」。上原理事長の言葉に一段と力がこもる。「スペインのマドリッドの寺院なんかですとね、300年くらいかけて造っているんですよ。そんな様子を見てますと、性急に答えを出すのではなく、長いスパンで物事を捉えてゆきたいと思いますね」。

聞くと、上原理事長は、このアリア・ディ・フィレンツェに対してかなり大きな展望をお持ちのようだった。多くの人々が集い、これからますます活気に満ちあふれた場所になることを楽しみにしている。

民歩会

山に 自然の息吹に
そして時の流れに気づく豊かなころ
歩いてこそ得られる醍醐味がある



歩こう、という同じ気持ちの仲間がいる

お話を伺ったのは『民歩会』で事務局を務める中川正治さん。会員は現在55名。

「もともと県教育委員会・生涯学習課で行っていることぶき学院の大学院に在籍した仲間たちでしてね。当時、何かみんなで楽しめることはないかというのを考えたんですよ。そこで浮かんだのが、俳句や書道、郷土研究などの静的なものやハイキングやゲートボールといった動的なものだったという。「大勢でできて健康にも良いことをというわけで、ハイキングクラブを作ったんです」。大学院にいた2年間だけでも10数回各地をめぐる歩いた。「あつという間に卒業を迎えたんですが、メンバーから、ぜひこれからも続けたいという声が高まって、晴れて『民歩会』の結成となったんです」。平成6年4月のことである。

会の発足と同時にまずは組織作りを行った。山歩きは危険が伴うものなので、出来ればグループで、欲を言うなら誰か歩き慣れた人に一緒に行ってもら方がいい。その点を最も熟知している中川さんがコースの検討から下見、時間配分など全体のとりまとめ役となっ

ている。「幸いにして一度も救急車を呼ぶということがありませんでしたから、それが何よりですね」と中川さん。平均年齢72.5歳。皆それぞれ、日頃から歩く努力をしているそうだ。「きつい時もありますよ。でも大変だなあと言いつつ、また次回も集まってくるんです（笑）」。



事務局を務める中川正治さん

大自然の中で感じる、自分という存在

今まで県内はもとより、尾瀬や乗鞍、立山や上高地といった県外に、また今年夏にはスイスへも足を伸ばした。来年はカナダやニュージーランドなども計画中という。最近、アウトドアブームで確かに中高年の山歩きが増えているのは事実だ。しかし、なぜ中高年が多いのだろう。時間的な、金銭的な余裕などいくつか理由はあがるが、「心のゆとり」が一番大切だと思う。例えば、若い頃には周囲の景色が目に入らないことも

多い。通勤路に可憐な美しい薄紅の桜が咲いていても、なかなか記憶には残らないものだ。たまたま桜には気づいても、梅の花に気づくだろうか。日毎に膨らみを増すあの小さなつぼみに気づくだろうか。バラやユリには敏感でも、ジンチョウゲの匂いをすぐに思い出せる若者は少ないのではないだろうか。きっとそんなところに大きな違いがあると思う。年齢を重ねるごとに深まる人生の味わい。ましてや中川さんら『民歩会』のメンバーは、多感な青春時代を戦中・戦後に過ごしてきた人ばかりだ。

ハイキングの魅力は?と尋ねると、「やはり大自然の中で自分の存在を確かめられることですね。それに道すがら友人と話をするのもしフレッシュになります」。その言葉の奥には、感慨無量の境地を幾度となく体験できた喜びが秘められているように思えてならなかった。

[取材：原田陽子]

平成6年4月、発足。これまでに県内外52ヵ所をめぐる歩く。民歩会を学んだ仲間が歩くので、民歩会。各地の無形文化遺産はもとより、神社・仏閣、道祖神なども対象とし、会員の健康維持と親睦に努めている。

会長：秋山弥太郎 事務局：中川正治
〒400 山梨県甲府市宝2-11-18
☎0552(22)7730

マーケティング 戦略の再構築

—生活者視点からの市場創造へむけて—

図)縦型ブランディングと横型ブランディング

a) 縦型ブランディング (トヨタ自動車の例)



b) 横型ブランディング



●プロダクト・アウト型 マーケティングの崩壊

日本においてマーケティング戦略が展開されたのは、戦後のことである。アメリカで興隆がみられたマネジリアル・マーケティング、特に4Pといわれる製品戦略、プロモーション戦略、価格戦略、チャネル戦略といわれるものが導入され、高度経済成長と共に、その有効性を発揮した。しかし、70年代後半に入り、経済成長が鈍化すると、飽和化した市場のパイの獲得をめざした競争対抗のマーケティングが生まれた。そして、バブルを経た現在、これらのマーケティング戦略が効かなくなったといわれる。

これまで展開されてきたマーケティングは、一貫してメーカー・サイドのプロダクト・アウト型であったといえる。市場を単純に所得によって分割し、それに応じた製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略が練られた。例えば、自動車であれば「いつかはクラウン」という言葉に代表されるように「カローラ、コロナ、クラウン」と、ウィスキーなら「トリス、レッド、ホワイト、山崎、響」と価格帯に応じてブランドが構築された。

こうした価格重視のフルラインを縦型のブランディングとよぶ。これらの戦略は、右肩成長の時代の顧客ニーズには合致していた。これに合わせ、販売拠点が各地域に作られ、拠点を設けた分だけ比例的に売り上げも成長をみせたのである。自動車では、製造プロセスが一緒でありながらも、製品名と販売会社を変えることで、兄弟車といわれるものも作られた。こうしたマーケティングは差別化マーケティングといわれるが、そこに顧客の視点は存在していない。

●生活者視点からのマーケティングへ

したがって、経済成長を経て成熟社会となり、生活の精神的充足を求める時代に入ると、これまでの価格による戦略は合わなくなる。事実、モノを所有することでワンランク・アップの社会階層に帰属できるという錯覚は去り、自分の生活にフィットした効用をもたらすか否かが購買決定に大きく影響を与えることとなったのである。RV車のヒットなどはまさに、縦型ブランディングではなく、生活シーンから求められるようになった横型ブランディングだといえよう。横型ブランディングを考えるならば、まだまだ市場は開拓できる。コンパクト・

カーという日本では、低所得者層を対象と考えられてきた。SAFETY & ECOLOGYという観点から見直し、女性や高齢者向けの製品戦略やプロモーション戦略を実行し、それを対象とした専門ディーラーができてもおかしくない。

こうしてみると、これまでの企業は、本当に生活者の視点から事業を再構築してきたといえるであろうか。いうまでもなく、企業の事業命題は「持続性」であり、そのための事業目標は、P.F.ドロッカーもいったように「顧客の創造と維持」にある。シェアや対前年比は、顧客満足によって導き出される結果でしかないのに、これら目標として戦略を構築してきたのではなかろうか。このため、営業マンは新規顧客の開拓に奔走し、売りっぱなしの営業をしてきた。これを反省し、一人ひとりの顧客と持続的関係を結ぶことからビジネスを再構築しなければならないであろう。もちろん移行期間の減収はあるかもしれないが、これを恐れずに断行する企業が21世紀の市場を確保することになるのではなかろうか。今こそ、カスタマー・リテンション(顧客維持)が企業の最重要課題なのであることを再認識していただきたい。 [文：青木茂樹]

早野グループ4社から 一番ホットな情報をお届けします

自動車事故 検証

当社の平成9年の事故件数は強力に事故防止を押し進めてきたおかげで平成8年より38%減少、その殆どが物損事故でしたが、11月に人身事故を引き起こしてしまいました。

発生日時：平成9年11月28日(金)午後4時40分頃

発生場所：中央自動車道下り車線 一宮インター合流地点

天 候：晴

1)事故概要 当社11号車(2t)が追越車線を走行中、インター合流の手前でワゴン車が方向指示灯を出さずに走行車線より割り込み、車線変更した。その前方を走行していたバン車がハンドル操作を誤り事故を起こし、追い越し車線に停車。事故車に気付いたワゴン車は走行車線に車線変更したが、11号車はワゴン車の死角に入った事故車に気付くのが遅れ、衝突した。この事故によりバン車に同乗していた1人が頸椎骨折、脳内出血の重傷、もう1人が頭部裂傷を負った。当方運転者は肺の損傷を負った。

2)直接的原因 ワゴン車が方向指示灯を出さずに急に車線変更をしてきたため十分な車間距離をとれなかった。また事故を起こしたバン車運転手が、11号車到達するまでに3分程の時間があつたにもかかわらず、三角表示板の設置等、事故発生後の処置を怠り車外にいた。

日頃から、特に高速道における十分な車間距離と速度制限を推進してきたにもかかわらず残念な事故が発生しましたが、今後は今まで以上に指導、教育を図ります。

甲府通運(株)
本社：中巨摩郡田宮町流通団地3329-1 TEL0552-73-0611

柏手副社長が退任

柏手勤代表取締役副社長が平成9年10月31日付けで退任され、11月1日付けで相談役に就任いたしました。柏手前副社長は、大正9年11月3日生まれ(現在77才)、昭和19年3月に山梨県巡査を拝命され、鯉沢警察署長、県警本部刑事部長等を歴任、昭和52年3月に甲府警察署長を退官の後、同年4月に早野組に常務取締役として入社いたしました。昭和56年9月に専務取締役に就任、昭和63年9月に副社長に就任、平成4年7月に代表取締役副社長に就任と、本年10月31日まで、20年7ヶ月の間当社に大変な貢献をされました。組織としてはまだ未熟だった20年前、当社に厳しい指導をいただき、現在の早野組を築き上げていただきました。又当社役員・社員にとりましては、時には教師として数々の指導をいただき、時には親代わりとして悩みを聞いていただきました。



「心の中がもやもやしている時に副社長と話をすると、溜飲が下がる気がする」と話していた役員がおりましたが、多くの役員・社員がそんな気持ちで副社長室に向かいました。今後とも健康には十分留意され、当社及びグループ各社に更なるご指導をいただけますようお願いいたします。

株 早野組
本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL0552-35-1111

新ジャンルカー「ハリアー」登場

乗用車の基本性能とRVの機能性を高いレベルで融合させた、まったく新しい車「ハリアー」が登場です。走破性が試されるラフロード性能はもちろん、高級乗用車レベルの乗り心地、静粛性を実現しています。

次世代を先取りした都会的で力強いスタイリング、リアシートスライド&リクライニングやワンタッチフォールドダウン機構など、快適空間をつくるユーティリティを追求しました。また、クラストップレベルの安全性はもちろん、都会的でスポーティ、フォーマルからアウトドアまでをスタイリッシュに演出します。

ぜひお近くのビスタ店でご試乗してみてください。ご来店をお待ちいたしております。



トヨタビスタ山梨(株)
本社：甲府市朝霞3丁目10-21 TEL0552-32-5511

メレーゼ・プレミア新発売

新年あけましておめでとうございます。

本年も昨年同様、ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。昨年11月7日に発表となりました「メレーゼ・プレミア」は「いつまでもビュアに暮らす家」として造られた健康住宅です。

業界初24時間の全館健康換気システム「ビュア24」は、世界初の光清浄換気扇「エアナビ」をはじめ、多彩な高性能換気扇を装備。オールシーズン新鮮で心地の良い空気を供給する計画換気システムが、春の花粉や、真夏の熱気などを自動的に解消します。また、「スペースアップコンボ」の設定によりキッチンや居室をより広くする敷地の有効活用も可能です。さらに、外壁は業界初の多彩塗装「ジュエルトップ」により、自然石に近い風合いと彫りの深い重厚な雰囲気、長年にわたり退色がほとんどなくいつまでも変わることはない美しさを保ちます。

健康・快適・調和の3つの視点から、これからの住まいを見つめた「メレーゼ・プレミア」



ア」はトヨタの新しい技術の集大成です。

トヨタホームは、家族ひとりひとりに快適で便利な住まいをめざし、常にこまやかに心くばりしています。

トヨタホーム山梨(株)
本社：中巨摩郡昭和町西1043 TEL0552-75-1234 FAX0552-75-7806

千体仏を刻み続け 果てしない道を歩み
日本的な業績を残した人
その遍路の道程は2万キロに及ぶという

木喰五行上人

(もくじきごぎょうしやうにん)

上野 晴朗

うの はるお
1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数

民芸の始祖・微笑仏の開祖といわれる、日本的に有名な木喰五行上人は、山梨県下部町丸畑の出身であった。

丸畑の伊藤六兵衛の二男といわれ、伝では享保元年(1716)の生れで、14歳のおり故郷を出奔、22歳のとき仏門に入ったという。地元には青年時代、武士を志したが成功しなかったという伝説もある。

遍路の意味を込めて行道と唱え、晩年には木喰五行菩薩、明満上人とも仙人ともいわれた。日本回国修行を發願して木喰行者となったのは、安永2年(1773)ころといわれる。木喰(木食)とは米穀を一切断ち、生食で主として木の実を食べて修行する僧侶のことで、遊行僧ともいわれる。文化7年(1810)93歳で没したというが、その場所は定かではない。

私がこの丸畑の木喰さんに惹かれたのは、少年時代、式場隆三郎氏の「宿命の芸術」という本に出逢ったため、その中にロートレックやヴァン・ゴッホの生涯が紹介されていて、少年らしい憧れを抱いたのだが、とくに民芸家の柳宗悦氏が甲府の小宮山清三氏の蔵の中から、不思議な一本彫の微笑仏を発見した話には強烈な印象をうけた。

柳氏は以後、この不思議に優しい微笑仏に惹かれて研究を続け、ついにその作者が下部町丸畑の伊藤六兵衛の二男



馬頭観音像 丸畑 小林一郎氏蔵

であることを突きとめ、このたくいまれな遊行僧の全国行脚と千体仏の悲願を知ったのである。

心から心を伝える意として用いられる「拈華微笑」という言葉があるが、私にとってはこの木喰仏のことが書かれた「宿命の芸術」との出逢いこそがその出発点となった。そして太平洋戦争後たまたま甲府に住んだところ、心を導いていただいた式場氏が、その昔すぐ近くに住んでいたことを知り、驚きがまた新たに湧き上がった。

そんなある日、甲府の骨董商でたまたま木喰仏の虚空蔵菩薩を一体手に入れることができた。10厘ほどの小さなものであったが、それでも私としては天にも昇る思いで欣喜雀躍した思い出がある。

いよいよ民芸熱が昂まって東京民芸協会に入会したところ、戦後すぐでは山梨からの入会者はほとんどなく、ただ一人先輩に山梨交通重役の中込晃氏がおられた。すばらしい木喰仏の子安観音を秘蔵されていて、しかも小宮山清三氏とも知己で、一緒に小宮山氏と柳氏を応援して、木喰研究を深めていた一人であった。

私を子供のように可愛がって下さり、私は中込氏と二人で東京民芸協会の会員達を丸畑に招聘して研究会を開いたり、甲府で親睦会を開いたりし



丸畑に近年復元された四国堂



微笑む丸畑マッコ堂の仏像

た。そのころの丸畑は大変な山の中、麓の古閑から徒歩で山路を登っていかねば、目的地には着かない。あいにくと雨模様で、ぬかるみを辿って漸く丸畑にたどりついた。その上戦争が終って4~5年目であったから、当時はまだ木喰さんをめぐる遺品類も史跡も保存熱は低く、民芸協会員たちをがっかりさせてしまった。

けれども木喰さんの生家伊藤家や、四国堂の跡、永寿庵の五智如来、裏山にあるお宮の山之神像、田之上のマッコ堂の木喰仏を順々に拝観して歩くと、さすが丸畑は木喰仏のふるさと。民芸のメッカであったから、東京から来た会員達はすっかり昂奮し、民芸熱も高まって満足しきった。

それから幾星霜。丸畑へは車で簡単に行けるようになったし、今は四国堂も復元され、木喰会も華々しく活躍している。全国的に研究熱も高まり、次々と新資料も紹介されるようになった。同時にその価値も、単なる美術評価だけでなく、精神面で高く評価されるようになって、人間賛美の域にまで高められてきているのは嬉しい。

それにしてもその特徴は、なんとい

っても独特な微笑仏のもつ笑顔である。それも仏像であっても威厳というのではなく、土臭い笑み、ほのぼのとして庶民の笑いがこぼれ落ちそうで、そこに誰も惹きつけられてしまうのである。その伝記も多種あるし、評価もまた様々であるけれども、実は私が一番惹かれ興味を抱いているのは故郷に残る伝説である。

冒頭に青年時代武士を志し成功しなかったと書いたが、地元にはいや一旦は武士となって、市川大官所の役人となって駕籠に乗って丸畑に巡見に来たという話が伝わっているというのである。そのとき父六兵衛は名主を勤めていたので、えらい役人が来たというので自ら駕籠を担ごうとすると、簀が上がつてその必要はないといわれ、あとで息子と判ったというのである。

けれどもこの話、あまりに出来過ぎた話のように思う。たとえば22歳で仏門に入ったのは本当のようであるから、その前に若干20歳前後で駕籠に乗れる武士になれるなど、到底考えられないのである。当時「三ピン侍」というのがあった。代官所などの手付・手代の階級で、恰好は武士だが年3両1分の給金でそのため奥進にされ三ビ



大日如来像 丸畑永寿庵蔵

ン侍といわれていたのである。そこまでは努力さえすればなれるが、しかし30~40歳で金がたまり、運がよければ士分の格式が得られるというだけの話で、その点木喰伝説の話は付会のように思われる。

ただ青雲の志を木喰さんが青年時代抱いたことは、ことのほか注目してよい。日本の封建社会の下積みから武士を夢見ることは、はじめじめした村構造の中から、なんとか抜け出したいと願う多感な若者の一典型である。

人間的なという表現がルネサンス期に「ミクロ・コスモス」という言葉で表わされたが、木喰さんの意識はそのミクロ・コスモスに当てはまる。その人間的意識をもった人が、一旦の挫折から自分の小宇宙を見出して仏門に飛び込み、なおイマジネーションに取りつかれて従来の仏像にない微笑仏を生み出したことは、「日本のルネサンス」を江戸期に実現した唯一の人といえるだろう。

ボクのアート品観察日記 8

ゴッホの「ひまわり」について考えた

山本 育夫

やまもと いくお

ミュージアム・マガジンDOME（ドーム）／美術品観察AW
（エイ・ダブリュー）／美術批評・展覧会批評誌LR（エル・アール）編集長 週刊朝日に展覧会批評連載中

ゴッホ贋作騒ぎ

1997年10月27日付けの朝日新聞に、アッと驚くような見出しが並んでいた。いわく、「安田火災の「ひまわり」は偽物？」、「英紙報道／模倣画家の作品」。実は朝日新聞が安田のゴッホ贋作説の報道を流したのはこれで二度目。よほど朝日は安田のゴッホが気に入らないらしい（笑）。

安田火災海上保険株式会社が「ひまわり」を購入したのは、1987年のこと。バブルの絶頂期であった。ロンドンの名門オークション・クリスティーズのそれまでの世界記録の三倍にあたる、史上最高値58億円で落札したことで世界的な話題を呼んだ。同じころ日本の画商は世界中を駆け回り、札束でよこっ面をはたくような勢いで「名画」と呼ばれる、実は二流、三流の絵を買いあさり、ひんしゆくを買っていた。その後、バブルが崩壊し、買いあさった絵は売れぬまま隅田川沿いの倉庫や銀行の奥深く眠っている状態であるという。

このあたりについては、NHK報道特集「バブル美術館」で詳細に報じて

いたので、ご覧になった方もあろうかと思う。絵を売ったスイスの画商は、B級の名画を驚くほどの価格で買っていった日本の画商たちを、いささか軽べつしながら、まあ、彼らは一応プロですからね、売りましたけれどネ、とコメントしていた。

そのスイスの画商は、バブル崩壊後、売った絵を日本から再びはるかに安い価格で引き取り、その差額で膨大な収益をあげたのだという。その収益で巨大な美術館を建てた様子をテレビは報じていたが、見終わって言いようのない悲しみに襲われた。この種の無残さを、ボクらはきちんと引き受けていかなければならないのだ。

「ひまわり」比べ

さて、件の「ひまわり」を偽物と結論付けたのは誰かという。英国人の女性美術専門家ジェラルディン・ノーマンさん。彼女はゴッホの作品を模倣した画家として知られているクロード・エミル・シェフェネッカーが、安田の「ひまわり」を描いたのだと決め付けている。

英国では、7月に、美術紙アート・

ニューズペーパーが、安田の「ひまわり」を含む100点以上のゴッホ作品が偽物である可能性が高いと報じたばかり。今回のニュースは、サンデー・タイムスの記事だった。

だからというわけではないのだが、今回は、国立フィンセント・ファン・ゴッホ美術館所蔵の「ひまわり」と、安田火災東郷青児美術館所蔵の「ひまわり」を、その部分図版で見比べてみた（図1）。タッチの違い、サインの違い、「ひまわり」の描き方の違いなど、その違いがよくわかることと思う。安田の絵にはサインがなく（図2）、タッチも異なるが（図3）、全体の描き方にある種のためらいが感じられる。それに比べてゴッホ美術館のそれは、実に明快な筆さばき。いかにも再制作という感じが伝わってくる。

「ひまわり」のない花瓶

ゴッホの「ひまわり」は14本描かれているが、この数、ゴッホがアルルに呼び寄せようとした12人の画家たちと、ゴーギャンと弟のテオを加えた数だと言われている。しかし、ご存じのように、ゴッホの計画は失敗し、アル

【安田火災】



フィンセント・ファン・ゴッホ
「ひまわり」

【ゴッホ美術館】



図1



図2



図3



ルに訪れたのはゴーギャンだけだった。そしてゴッホは、そのゴーギャンとけんかをして自分の耳を切り落とす「耳切り事件」を起こし、やがてそれが原因でゴーギャンはアルルを去り、ゴッホは精神病院に入院する。

1889年1月とは、ゴッホが精神病院から退院した年月である。ゴッホは生涯に「ひまわり」を、6点とも7点とも言われているが、描いており、特に、1888年には4点もの「ひまわり」を描いている。この4点のうちの一点をもとにして、1889年の1月に描いたのが、ゴッホ美術館の「ひまわり」であるとされている。

というわけで、14本描かれている「ひまわり」を画面から消去したらどうなるか、その寂しい画面もお目に掛けてみた（図4・5・6）。その画面を見ていると、ゴッホの寂しさが伝わってくるような気がして、悲しい。



図4



図5



図6

“古き良きモノの世界”を知って ますます心豊かな年にしよう!!

ここ数年、日本で続いている「骨董ブーム」。TVでは個人の持参したモノをプロの鑑定士に鑑定してもらうといった番組が相変わらず好評です。本屋さんには、通版カタログやおすすめショップなどを掲載した月刊誌『私のアンティーク』(学研)を始め、実際の買い付けや収集の仕方を学ぶための入門本まで、じつにたくさんの関連書籍が並んでいます。

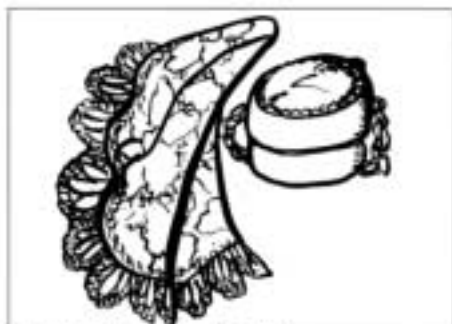
「えっ、アンティーク?古いモノでしょ。誰が使ったかわからないから、ヤダなあ」。そんな印象をお持ちの方もいると思います。でもただの食わず嫌いだとしたらちょっと損ですよ。新年も迎えたことで、この機会に、味わい深い趣味の世界を広げてみるのもいいかもしれません。

「アンティーク」の 魅力って何だろう

ところでみなさんは「骨董」と「アンティーク」の違いをどうお考えになりますか? 試しにここへ「レトロ」という言葉も加えて頭に浮かぶモノを挙げてみてください。

まず「骨董」。書画骨董というように一番最初に思い浮かぶのはやはり、掛軸や壺などではないでしょうか。「アンティーク」というと、レースや時計、ジュエリーなどが連想されます。それじゃ「レトロ」は?という、ブリキの玩具や懐かしいキャラクター商品といったモノでしょうか。気が付くとイメージがはっきり分かれてますね。そ

れもそのはず「骨董」はもともと中国から伝わる文字。「アンティーク」はイギリスに教わった概念だからです。ちなみに「レトロ」というのは、英語のretrospect(懐古、回顧)から派生した言葉で懐古調という意味で使われています。中国もイギリスも、最盛期に技術の粋を集めたすばらしいモノ



何世代にも渡って受け継がれていく

が作られました。そうしてそれらが長い歴史を経て今、貴重な古美術品となっているのです。

さてそのイギリスで。幼い頃からずっと家族とともに過ごしたテーブルを、お嫁入りの時一緒に持たせ、子供が生まれたら、今度はその子に贈るといったふうに、何世代にも渡って大切に使われている家具の話が聞きました。

使い込むほど愛情が湧くのがモノ。誰かが大事にしてきたモノをまた他の誰かが受け継いでゆく。そうやって人々の特別な想いが込められたモノは、手にした人に、言い知れぬ幸福感を与えてくれます。

時間というふるいにかけられ、淘汰され



たモノ。寡黙なゆえにかえってその魅力が引き立つのがアンティーク、といえるでしょう。

お宝は、意外と近くに 埋もれている!?

じゃあ、古ければ古いほどいいのが、というそういうわけでもありません。ひと昔前は「100年以上の時を経て美術品として現在に残っているモノ」というのがアンティークの定説でした。でも今はそれほど年代にこだわってはいません。古くても新しくても価値のないものはない。新しいものも、いずれは古くなるのですから、時代を問わず、充分に人を満足させてくれるホンモノを見極めよう、ということでしょう。

ところで、最近人気のブーツカットやヒップハンガーは、60年代のファッションです。流行にサイクルがあるのは本当で、ペロアもアーガイルも何年か前に確かに流行りました。

そこで提案!この際、宝探しのつもりで、お母さんのお古を引っ張り出して着てみるのはいかが。タンスの奥にしまわれてずっと出番のなかった着物や娘時代の服など、掘出し物に出会えるかもしれません。服たちも、また日の目を見ることができたと、きっと喜ぶことでしょう。お母さんからその服を着た当時のエピソードも聞いたりして、どうぞ和やかで心温かな、1998年の始まりでありますように。

「こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見」

富士山が厳かに眺められる季節である。新年の気分とあいまって、希望の象徴のようである。

1872年(明治5年)1月17日、英国人のアーネスト・サトウは富士山を目指し、甲州街道に軽馬車を進めていた。サトウは少年時代から日本に憧れ、19歳で英国公使館通訳生として来日し、動乱の幕末維新から明治を経験した人物である。

サトウは日本学の最高の権威といわれる「日本旅行日記」を著していて、富士山への旅行もそのなかに記されている。富士山麓で神道を勉強しようというのが目的だった。

「甲府県域」と記された上野原を通過するのは19日の朝。トウモロコシ畑と桑畑の高台を横切り、駕籠を雇って野田尻

まで向かい、そこから徒歩で旧甲州街道の難所「座頭ころがし」を越え、午後二時過ぎ、やつと待望の「頭に雲のかかった富士の素晴らしい眺めを得る」。

鳥沢から回り込んで、猿橋を見、岩殿山を眺めながら駒橋を過ぎ、再び富士

日髭からつらら ミカンも凍る街道筋 明治5年1月の 英国人による富士の旅

山の景色に感嘆。その夜は、旅館がないので通りに面した医者家に泊まることにする。医者は擦り傷の手当てに、熊の脂肪から精製したボマードの一種をくれたという。

4日目の朝は大月を8時30分に出発し、桂川沿いに谷村に向かう。「おそろ

しく寒く、口髭につららができた」ほどの山陰の道である。道中には熊、鹿、兎、雉子を吊している店があり、また沼津から来た魚も売っている。「富士の右側の裾野が徐々に現れ、やがて山頂部の右半分が見え始め、そうして小沼の少し手前で全容が見えるようになる」。ほっとした気分が伝わってくる。

小沼には12時30分に着く。果汁まで凍ったくねんば(ミカンに似た果実)、道中で買った魚と卵焼き、江戸から持ってきた田嶋で美味しい食事をしたとも記している。

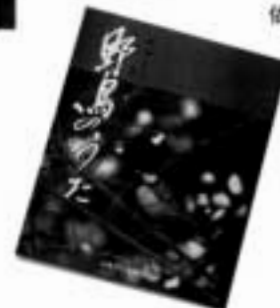
通り着いた富士嶽神社(北口本宮富士浅間神社)の周辺は3・4フィートの雪に覆われている。頂上を見上げたサトウの思いは次のように記されている。「頂上までは10里というので、私はずっと従ってきた谷村の役人や駕籠かき、村役人などのだれかれに登頂について聞いてみたが、皆雪が深すぎると言う」。(石

平凡社・アーネスト・サトウ「日本旅行日記」
庄田元男訳

Book

野鳥をうたった歌人たち 「野鳥のうた」

依田正直 編



野鳥はその姿や色彩が美しいことから、古くから多くの詩歌に詠まれてきた。とりわけ万葉集のなかには500余種と多いが、近代の歌人である斎藤茂吉や北原白秋にも多くの野鳥詩がある。

もしかしたら、野鳥と親しく付き合い、野鳥の鳴声を翻訳したものが歌なのかもしれない。歌人とは、野鳥の声を聞き取る能力をもちあわせた人たちのかもしれない。

著者は、日本野鳥の会甲府支部副支部長、山梨動物生態研究会事務局長などを勤め、環境庁長官賞などを授与されている研究家であり、すでに著書も多い。本書は、春夏秋冬ごとに野鳥を登場させ、

その生態やエピソードを披露するとともに、それぞれの野鳥を詠んだ歌と、歌人を紹介している。

野鳥たちの観察と解説は身近である。いずれも山梨の自然環境のなかで捉えられ、山梨県人の視点で語られている。そこにリアリティがあり、かつ、楽しい。さらに、鳥と花と木のかかわりと風景を描き、野鳥たちの暮らしの情感をとらえている。これは、研究を超えた著者の詩ともなっている。そこが本書の魅力と個性ともなっている。

野鳥たちの飛んでくる窓辺に置きたい本である。(川)

山梨日日新聞社出版局 ¥2,000

滝を見るハイキング

vol.3 大門川 宮司の滝 写真と文 上野 巖



自然の芸術を見せてくれる宮司の滝

南アルプスや奥秩父などと違って、山麓に滝を落とすような流れの少ない八ヶ岳だが、川俣川東沢と大門川には、中流域にいくつかの滝があってハイカーを楽しませてくれる。

川俣川溪谷の「吐竜の滝」は、最近あまりにも有名になりすぎたきらいがあるが、大門川の「宮司の滝」は、まだ割合



高地。清里ならでの迫力だ



周囲の岩に凍りついて

地にしみ込んだ雪どけ水や雨水が、溶岩層を通して集塊岩質層との間を伏流し、あそこで地表に出ているものだ。したがって冬でも水は比較的あたたかく、水溜は期待できない。

さて宮司の滝は、国道141号を走って清里駅入口を過ぎ、右に折れて長野県南佐久の平沢集落への道を下る。大門川に架かる平沢橋の手前で左へ川岸のコースに入り、上流に向かう。左からの支流を横切って川床も少し歩き、木



橋をひとつ渡るとしばらくで左岸に渡る立派な木橋の上に立つ。

宮司の滝は、その橋の上から一望できる。大きな滝ではないが滝壺は結構広い。飛び散った水滴が周囲の岩に凍りついて見事な芸術品を見せてくれる。やや下流の左岸の岩壁には、かなり大きなつららが下がっている。

橋まで戻って南のペンション千ヶ滝の庭から下りると、幅広く落ちる千ヶ滝がある。また国道に出て少し下り、クリスタルラインに向かって大門川を渡ると間もなく、豪快に落ちる大滝も見ることができる。



豪快に流れ落ちる大滝

【参考タイム】
清里駅—(20分)—>平沢橋—
(30分)—>宮司の滝—(35分)—>千ヶ滝

甲府通運前史を訪ねる(9)

〈甲府通運のページ〉

甲府市内の貨物自動車三十八台 県下総数百五十二台で物資の流通に当る 昭和初期の県内自動車運送の状況

林 陽一郎

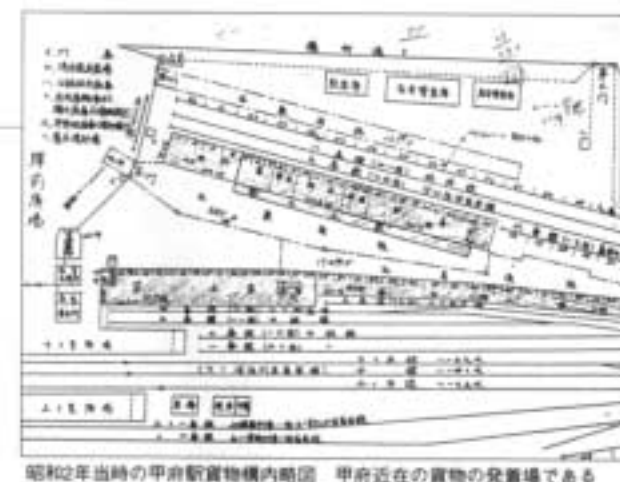
はやし よういちろう
山梨県教育委員会・歴史編集文化財担当

前号に引き続いて昭和2年(1927)の山梨県下の貨物自動車の状況について雑誌『開発』はつぎのように記している。

「都市の発達繁栄は交通機関の整備に依り大運送の下に小運送機関が相錯して其の発達に資したる事、決して尠くない、殊に甲府市を中心として前述の如く三十八輛(註 自家用十四、営業用二十四輛これが甲府市内での貨物自動車総数であった。)の自動車が目醒しい活躍せる、自動車の発達に依り多数の貨物を吞吐するに至り本県産業を益々発展向上せしめている。其の概況を見ると甲府市に於ける貨物運送自動車の嚆矢は大正11年であつて其の当時は僅かに一台に過ぎなかつたのであるが関東大震災後経済界に異様の変動を与へ著しく増加し現在三十八輛を算している。このうち自家用は会社、商業家等が自己の貨物運搬の為に使用しているもので、何れも一輛乃至二輛を所有し或は運送取扱人が取扱貨物の集配に使用して居るのである。営業用としては鉄道沿線の荏崎、塩山、勝沼、上諏訪方面、其の他小井川を経て市川、飯沢、飯富、小笠原、御嶽、若神子まで運送している。

即ち市内一日約六十噸、荏崎方面約五噸、塩山、勝沼方面約十四噸、市川方面に十三噸、以下一噸乃至三噸まで運送して居る状態であつて、荷捌の迅速、積下の簡易等により一般に是れを利用するもの漸増する傾向を示している。市内で貨物を利用する生産者は九名で主なる運送貨物は肥料、石炭、薪炭、米穀、其の他生活食糧品である。営業自動車の運搬して居る貨物は県下一円に主要品並びに日用雑貨、工事用セメント其の他が輸送せられて居るが県下に出働する自動車を見ると其路線甚だ複雑して居る。荏崎經由小淵沢方面 甲府よりの貨物自動車は殆んど雑貨を積載して居る又同方面の小淵沢、長坂、荏崎方面より木炭、生糸枠、雑貨を積載して甲府市に入り込むものであるが尚甲府長坂間に於いて定期を運転せんと計画している者がある。

小井川經由市川方面 甲府市より数台のトラックが河川工事用のセメント及雑貨を積載して日々出働し、又飯富、市川方面の村を縫うて和紙木材を



昭和2年当時の甲府駅貨物積内略図 甲府近郊の貨物の発着場である

積載して甲府に入込んで来る。

飯沢經由飯富方面 甲府より十数台内外のトラックが富士身延鉄道の工事用セメント、鉄材及び雑貨等を運搬して同方面より鮮魚、和紙、雑貨を積載して入込む自動車約十台内外ある。即ち本路線は甲府市と最も交渉多き主要なるトラックの随時営業用路線である。

小笠原方面 主として雑貨日用品を運搬。

石和、日下部、勝沼方面 甲府市より数台の自動車が葡萄、雑貨、日用品を積載して出働しているが又同方面より村を縫うて数台が入込む。

御嶽方面 甲府停車場より木電工事用のセメント及雑貨を積載して疾駆している。

以上が昭和初期の本県の貨物自動車の活躍状況であつた。

“キャリアは踏み台” 臨機応変な発想の転換で 最大限に活用されるプラド

峡北印刷 株式会社



長坂町の本通りに面した会社の受付に、ひっきりなしにお客様が入ってくる。そのたびに、事務の女性が手際よく用件を聞き、お歳暮代わりのタオルを渡していた。年賀ハガキの印刷がもう始まっている。ここでは、時計の針が少しばかり早く先に進んでいるような、そんな気がする一コマだった。

峡北印刷株式会社。大正10年に創業して以来、地元・峡北地方で印刷に関わるあらゆる分野の仕事を一手に引き受けてきた。16名の社員は、皆さんが経験豊かなベテラン揃いだ。お互いを熟知しているせいか、社内にはほの

ぼのとした雰囲気漂っている。

「ビスタさんの創業からのおつき合いですよ」と社長の藤森純一さん。今までトヨタビスタ峡北店から購入した台数は、トータルすれば既に10台を越えている。ちなみに現在、会社で使用している車種はプラドにクレスタ、アリスト、ビスタの計4台。個性的なラインナップだ。「僕のプラドは仕事専用で、山岳地やスキー場への納品などにおおいに役立っていますよ」とにこやかに話す。やはり季節的にも地理的にも四駆でなければ身動きがとれない事も多い。「見ていただくとわかるようにルーフにキャリアを取り

付けてあるんですね。一般的には荷物を乗せるためのものですが、僕の場合、人間が乗るために付けたんです」。

実はキャリアを踏み台にして高所から撮影をするのだという。ポスターやパンフレットの制作に使用する、写真を絶好ポジションで撮影したい。言い換えれば、クライアントに満足していただける写真を用意しておかなければならない。そのために、藤森社長自らチャンスを見つけては頻りに撮影に出かけるのだそう。「仕事熱心ですね」と伝えたつもりが「お祭り好きなんですよ」と明るくかわされてしまった。

「印刷業界も今やコンピュータ時代です。高品質の印刷物を、スピーディーに、いかに低価格でお届けできるかでしょう。お客様のニーズも多様化してきましたし、それにしっかり応えるためにはプランニングをしっかり立て、よりオリジナリティを出していかなければ…」

地の利、人の利、物の利を最大限に生かして発展する峡北印刷。藤森社長は、何か将来に確固たる夢を抱いているようで、若々しさにあふれていた。

〒408 北巨摩郡長坂町長坂上条2313
TEL 0551-32-3245



見栄え良し 住み心地良し “絵になる家”で実現する 日常の贅沢感

山下 彪さん宅（敷島町）



敷島町の南に広がる閑静な住宅街。その一角に、ひとさわ風格の漂う家がある。山下さんのお宅だ。グレイッシュローズの淡い外壁に濃い色の屋根がきりと引き締めている。下屋と上屋のバランスが美しい寄せ棟で、玄関には門かぶりの松。そして庭には四阿と、いたるところに“絵になる”要素を含んだ家だ。

トヨタホームの「メレーゼ」。トヨタ部品東京共販株式会社で参事をお務めの山下さんが、新築する際にまず考えたのは「すべての部屋を南向きにすること」だったという。「大まかな希望を出してそこか

ら詳細を詰めていったんですが、なかなか大変でしたよ」。

間取りというのは家族の形態が大きく左右するものだ。例えば山下さんのお宅では、一緒に暮らすお母様の部屋を玄関からすぐ近くに配し、トイレやお風呂への導線もスムーズであるように心がけている。1階にリビング、ダイニング、和室、寝室、2階には息子さんの部屋と将来の二世帯住宅を考慮して12畳の部屋を設けキッチンもつけた。合わせて55.2坪。「洗面所やトイレのスペースは、余裕を持たせたかったんでね」と山下さ

ん。どちらかと言えば、リビングなどを重視する人が多い中「やはり毎日使う場所こそ、贅沢に」とこだわった。

その成果が「実際に住んでみて、予想以上によかった」というひとことに表われている気がする。

玄関正面には花の飾られたコーナークウンターがある。フラットな壁に花器がちょうど収まるくらいの空間を掘り込み、上からライトで照らし出す。何とも洒落たこの演出、実は裏側に当たるトイレを想起させたくない、という願いを汲んでのオリジナルだという。他にも、廊下との間仕切りを斜にし、和洋折衷にしたリビングや上半分をガラスにしたドアなど、間取りを活かしつつ、雰囲気を大切に工夫が細部まで行き届いている。

奥様に尋ねると「仕事のしやすいU字型キッチンや日当りのいいバルコニーもいいですが、一番気に入っているのは収納面でしょうか」とにこやかに答えた。洗面所には壁一面に収納棚が納められ、台所の床にも特注の収納庫が設けられている。

昼下がりに。案内していただいた本格的な四阿にはティーセットが見え、すでに新居での生活をたっぷり満喫している山下家の様子が伺えた。



会いたい人から 会いたい人へ
 知りたいことから 知りたいことへ
 リレーでつなぐエッセイ

古い街道と新しい道

川島 秀一
 かわしま ひでかず
 大学教員



私が家族とともにこの町に移り住んだのが15年前。その時7歳であった双子の息子も、この3月大学を卒業して社会人に。今は家内との2人暮らしである。私自身も来年2月で49歳。今の時代、50歳を過ぎればリストラの世代(?)。30歳半ばから50歳へという、一番の働き盛りをこの地で過ごしたことになる。

いま窓から眺めるこの町の風景も大きく変わった。その《風景》の変貌は、そこに住む時間が長ければ長いほど、人生の時間と生活の紙魚や端を映し出す。こちらへ住むゆえに別れてきた人。この地で出会った人。そして離れていった人。嬉しさと悲しさ、そして悔い。それら思いを刻みながら時間は過ぎて行く。いまその《風景》を眺めているのだが、奇妙にセンチメンタルな気持ちになる。そしてそのうちすぎた15年の時間のかたに、故郷に残したままの年老いた両親の辛そうな顔がふと浮かびあがる。

私の住んでいるところは、敷島町中下条。敷島葦崎線の道路から南に2、300mの町屋という旧村の南の端。すぐ西側には広がった敷島竜

王線が走り、道沿いには銀行やコンビニやビデオショップ・カラオケボックスなどが立ち並んでいる。数年前まで、子供の頃では、町にコンビニができたことが、いわゆる田舎でなくなったことの象徴であった。

今や、そんなどころではない。町の中心部を東西に貫く甲府敷島葦崎線は、春になればハナミズキの咲き誇る美しい町並みに変身。その道路は、町の西側で竜王線と大きくクロスし、町全体が、茅ヶ岳の裾野に向かって、北側へ大きく広がっていく。

久しぶりに歩いてみると、数年前にできあがった総合文化会館を拠点に大きく開け、ほんの最近まであった一面の田畑は、ほとんどが新しい一戸建て住宅とシャレたマンションで埋めつくされている。そこでは、若いカップルが新しい生活を営んでいる。

そのように新しくひらけ行く一方で、私の周辺には、いまだ崩れかけた土塀の跡を残す古い町の風景を残している。先頃も、知らぬ間に家の横を南北に走る細い道の脇に「袖すり橋跡」という標柱が建てられていた。説明によれば、江戸時代この道

は「町屋往還」と呼ばれた木曾の御嶽方面につながった街道で、当時その橋の上は、哀しい男女の物語を生んだという。その道を少し北に上がると、今は広がった甲府敷島葦崎線に突きあたるのが、ちょうどその場所に、八幡神社という、今はいささか荒れるにまかせた神社がある。神社自体は古く、奈良朝末におかれたもので県内でも屈指の古さを誇るという。古くはこの辺りを中心に人が行き来したのであろう。そして街道は、町の西側を通過して葦崎へ抜け、諏訪方面へ通っている。なだらかな丘陵地帯をなす双葉にむけて、下宿・上宿という地名を残すのも、そんな街道の名残なのだろう。

こうして過去の時間を貫くように東西につながった古い街道と、いま新しい時間に向かってひらけ行かんとする南北をつなげた新しい道。すでに町を南西にとり囲うように中央高速が走っている。そして新しく町を貫き囲うよう作られる新しい道。人が移り住み、新しい《風景》を作り出す。そして人々はまた、多くの人との出会いの中で新たな《物語》を生み出して行く。

ほどよくクールでたっぷり優しい 家族思いのがんばり屋さんに この秋 舞い込んだ“良運”

関東運輸局長表彰を受けた

甲府通運株式会社 小倉和夫さん(田富町)46歳



趣味の作品 玄関掛けと写真立て

結果は後からついてくる

よく“運も実力のうち”ということを使う。この人には、どうやらその言葉がピッタリのような。

昭和44年に甲府通運株式会社へ入社。「学生時代に甲府通運でアルバイトをしていましたね。車に乗って山梨を離れると見るもの聞くものが新鮮に感じられたんですよ」。

運送を通して新しい世界が広がることに興味を覚え、そのまま社員に。勤続28年目を迎えた今年10月、関東運輸局長から表彰を受けた。言わば、折り紙付きのベストドライバーという意味だ。無事故・無違反を貫くのは一見簡単そうだが、これがなかなか難しい。370社登録しているトラック協会の中でも、今回小倉さんと同じ賞を受けたのは3人だけ。それもそのはず、この賞に先立ち山梨陸運支局長賞があり、まずこちらを受けていることが第一条件。勤続は5年以上、さらに過去3年間無事故・無違反でなければならない。例えば支局長表彰をいただいていた1度でも違反を起こしてしまったり、もう該当からはずれてしまう可能性が高いという。

何よりの榮譽に違いないのに、小倉さんはクールに受け止める。

「結果というのは全部、後からついてくるものだと思います。表彰だけを考えると毎日運転してるわけじゃないですしね」。けだしもっとも。



数々の条件をクリアして受けた栄誉

家族のために、ひいては会社のために

小倉さん流の照れ隠しかと思いきや、次の言葉にうなずかされた。「私には妻とふたりの娘がいます。その家

族のためにも私が事故を起こすわけにはいかないでしょう」。

事故というのは物理的なマイナスもあるが、どちらかといえば精神的なダメージの方が大きいもの。その点、こんなふうに一家の長としての自覚を持ちながら、つねに細心の注意を払って運転している小倉さんの姿勢は、傍から見ても納得させられる。「プロという言葉をおおげさに使いたくはないけれど、そういう意識は忘れずに持っていたいですよね」。

取材中も終始ハキハキした受け答えで、とにかく元気な小倉さん。聞けばスキーにゴルフ、ソフトボールのピッチャーとスポーツは何でもこなし、将棋も初段、デザインを経験を生かして看板制作などもしているという。

そうしたチャレンジ精神旺盛な人柄を評価されて会社では重要な得意先を任されているようだが、小倉さんが担当してから売り上げが伸びているという実績こそ、すべてを物語っているのではなかろうか。

今後もしも、そのクールさと優しさ、そして良運の他は何も寄せつけないパワーを持って、ますます大きく飛躍してくださいね。[取材：原田陽子]

おしゃれ

シダックス 甲府山の手通りクラブ



営業時間 12:00~2:30
(金・土・祝前日は4:00まで)
利用料金 平日18:00まで1h300円
(3~4名) 900円(4~7名)
定休日 なし
所在地 甲府市大和町3-35
TEL 0552-54-6311



ファミリーも、会社や学校の仲間も みんながたっぷり楽しめるカラオケスポット

北は北海道、南は広島辺りまで全国展開しているカラオケのFC・シダックス。平成9年10月に甲府市大和町へオープンしたこの店は、ちょうど100店舗目に当る。すでに1年半程前にオープンした徳行店を「南西通りクラブ」と称するのに対して、こちらが「甲府山の手通りクラブ」と名付けられている所もおしゃれ。50ルームを有する建物は内外観ともにゴージャスで、まるで遊園地のような雰囲気が漂う。ローソファーにぬいぐるみやおもちゃのあるキッズコーナーや身障者用のトイレを揃え、お客様の満足度を高めることに特に力を注いでいる。何といっても魅力的なのはメニューの豊富さだろう。ムール貝の焼プレートや海の幸サラダ、ふかひれスープに特大ナン&キーマカレー、ピラフやバスタ、デザート等、どれもレストランに劣らぬ味ばかり。これも母体が給食センターというシダックスならではの大きな特徴だ。パーティーシーズンを迎えるこれからの時期、しっかり予約して悠々と楽しもう。



若さあふれる店長の長嶋さん

豊富なメニュー。ムール貝の焼プレートや海の幸サラダ、ふかひれスープに特大ナン&キーマカレー、ピラフやバスタ、デザート等、どれもレストランに劣らぬ味ばかり。これも母体が給食センターというシダックスならではの大きな特徴だ。パーティーシーズンを迎えるこれからの時期、しっかり予約して悠々と楽しもう。

たべる

サンタマリア デル フィオーレ



営業時間 11:30~13:30
17:00~21:00
定休日 土・日曜 年末年始
所在地 甲府市川田町アリア205
TEL 0552-20-1600



のびやかな空間でゆったり味わう アリア・ディ・フィレンツェの美味しいひととき

甲府市川田町のアリア・ディ・フィレンツェにあるレストラン。隣接する多目的ホール(最大200名まで収容可能)で、パーティーや披露宴、コンサートが行われた後の2次会によく使用される他、普段は周辺に点在する各社の社員が利用している。しかし、一般客もOKなので、アリアを訪れた際に気軽に立ち寄ってみるのもいい。

ランチは、パスタやカレーにそばやうどん、さば定食など栄養のバランスのとれたメニューが揃っていて500円前後。ディナーには、旬の素材を盛り込んだシェフ自慢の料理が味わえるそうだ。

ちなみに、色鮮やかなオードブルが魅力のパーティディナーは10名様より、前菜からスープ、サラダ、主菜にデザートとコーヒー、それにワインまで楽しめるディナーコースは5名様より、どちらもお一人様3,000円からと、手頃な値段がうれしい。着席で約60~80名くらい。ディナーを利用したい場合には、少人数であっても予約が必要なので、前もってTELを忘れずに。

お茶の間の民俗学 (6)

—ふるさとの心と味(1)—

ほうとうの起源と種類

志摩 阿木夫 民俗学研究者
しま あきお

ほうとうって郷土食?

「うまいもんだよカボチャのほうとう」という地口で知られるように、山梨の郷土食の代表である「ほうとう」は、甲州人ならば誰でも知っている食べものだが、さてほうとうという呼び名は「どこから来たものか?」と問われても、説明できる人はそう多くはいない。

現在では郷土食といって胸を張っているが、その起源を尋ねていくと、実は今から千年も前には全国にあったもので、語源は天元5年(982)から長元3年(1030)ころに書かれた『小右記』という書物に「餛飩」という名で登場していて「小麦粉で作った食べもの」と説明されているものが原典である。

その「はくたく」が「ほうとう」とまで変わったのは、もともと中国から渡ってきた食べもので、中国語では餛飩を「ハウトン」とか「バクトン」と発音したところから、ついには「ほうとう」となったものと思う。

古くから日本全国にあったこのほうとうが、なぜに山梨の郷土食になったかという、ご存知のとおりこの山国には米作が乏しいので、米が尊い食糧であったから、日常どうして米に代わる食糧を使わなくてはな

らない厳しい風土であったことが、その理由である。

米が豊かな地方でも、最初は何らかの代用食で米食の不足を補っていたが、次第に米が増産されるようになると、代用食でなくても十分な食生活ができるようになり、ほうとうのようなものを作ることを必要としなくなった。

しかし山梨では、そういう時代になってもまだほうとうのような代用食を食べないと、満足な食生活ができなかったのだ、ほうとうが作り続けられた。また、それが一日三度の食の中で一食だけは代用食を食べる習慣となっていた。そして戦後の観光の郷土食掘り出しブームで、思いがけなく脚光を浴びるようになった。いうならば「蕎麦が馬」のような存在の郷土食である。

しるこほうとうって?

ところで一概にほうとうといっても、これには三種類あって、そのひとつが「のしこみ」と呼ぶ一般的なものである。これは小麦粉を練ったものを



薄くのして、細長く切ったものを、野菜を具にして、煮込んだみそ汁の中へ放り込んで煮あげたもの。もうひとつは「つみ入れ」と名づけられたもので、小麦粉を柔らかく水で溶いて、しゃもじなどでみそ汁の中へ放り込む別名「すいとん」と呼ぶもので、あと三種類目のものは「粉ほうとう」または「しるこほうとう」というもので、この場合は日常食というより行事的存在であるから、煮込む汁はみそ仕立てでなく小豆汁で煮あげたものである。村祭りや盆とか正月の「晴れの料理」として特別につくるもので、しかもしるこのように甘味があるので、この上ないご馳走とされた。

中国経済よどこへ行く

・アジア経済の興亡　・香港の通貨危機を経て

公害を英語に訳すと

・環境保護先進国としての日本　・京都会議の意味



×月×日
中国では民主主義運動は、時代遅れとなった。日本では、未だに、政治体制（共産主義）と経済体制（資本主義）の2つの制度の歪みが問題だと言う人もいるが、そういう議論はもう古いと思う。
江沢民主席は、今後の5年間で、インフレを含まない実質の所得水準を2倍にするとしたが、1980年代から年間30%を超える経済成長を経験して、国民の目は、民主主義よりも市場で勝利を収めることのほうが重要であるという方向に向くようになった。今や中国は、いわゆる社会主義国家という概念からかけ離れたところに存在する。「共産主義の皮を被った資本主義国家」と言う様相を示している。このような中国の問題点は、「一国二制度」という制度的側面にあるのではなく、もっと資本主義的な側面から派生するように思われる。私は、中国の経済危機は為替によって引き起こされる、すなわち、中国経済のアキレス腱は通貨にあると思う。
一般に、通貨当局が自国の通貨を管理するに当たっては、国内の金融市場における管理よりも、国際市場における為替レートの管理の方がずっと難し

い。中国政府は、自国通貨の管理においては、自信を持っているようであるが、今までの中国通貨は、国際化と言う点において、いささか立ち後れていたと言うことを忘れてはならない。国際化が進むと共に、管理は加速度的に困難となって行くであろう。アジアの経済危機が叫ばれる今日において、私が本当に心配しているのは、中国の為替政策である。ここを震源地とした大地震が起こったならば、日本もその影響を受けざるを得ない。余震はもう香港に起こっている。
×月×日
「公害」を正しく英語に訳すことは不可能である。この手の日本語は、殆どのものが英語を日本語に直したものであることが多いから、何かあるだろうと思って探してみるが、どうもうまいのが見つからない。辞書を見ると、Pollutionのところに、汚染、公害、と書いてあるが、この単語は、本来「汚染」といった意味で使うもので、「公害」とは異なる。実際、日本語で放射能汚染と言うときの「汚染」と、大気汚染等を指す「公害」とは、まったく別の言葉である。その他、英語へ

の直訳としては、Environmental Pollution、Public Nuisanceなどがあるが、どうもしっくりとこない。
どうもこの言葉は、生っ粋の「日本育ち」らしい。社会科学において殆どの用語を、外国からの助っ人に頼っている日本語にしては珍しいことである。外国から怒られるかもしれないが、私は、日本は最も環境保護の進んだ国である、と考えたことがある。「公害」と言う言葉にしても、1960年代後半から70年代、環境庁が生まれた頃、日本が本当に公害に悩まされたことで出てきた言葉で、実生活から生まれた本音の言葉とも言える。
東南アジア出身の友人が、京都の北山杉の杉林を見て、「俺の国の森林は日本人によって破壊されてしまったが、日本国内にはこんなに美しい森林が保護されているではないか!」と言って怒った事がある。我々は、自分の身に降りかかる火の粉を振り払うのが上手い。70年代の公害問題も、国内のものは殆どクリアされ、水俣では漁業が再開されたり、京都で世界環境における炭酸ガスの削減案が話し合われたばかりだ。
[文：杉村 聡]